

総合的な学習の時間

小学校 第5・6学年

OS・ソフト等

- ・Windows
- ・ロイロノート
- ・Cisco Webex Meetings

<単元・題材名等>

オンライン交流会を計画しよう

ねらい

他校の児童とのオンライン会議を通して、交流相手校の考えたお楽しみ会のレクリエーションが、オンラインでも楽しめるように工夫された内容であることに気づき、そのよさを取り入れながら内容をよりよいものに改善することができる。さらに、よりよいものに改善できたのは、話し合い活動による他者との関わりによるものであることを実感し、これからも話し合いながら交流会の計画を進めようとする思いをもつことができる。

主なICTの活用方法

- ・オンライン会議システム(Cisco Webex Meetings)を用いて意見交流をする。
- ・協働学習支援ツール(ロイロノート)を用いて、事前に作成した意見を発表したり、集約したりする。

ICT通じて育成する資質・能力

- ・ロイロノートを活用して、児童が自分の考えをまとめることで、自信をもって他者に伝えることができる。
- ・ロイロノートを活用することで、自分と他者と考えを比較、整理しながら、合意形成を図ることができる。

実践の概要

令和4年度より本校(全校児童数8名)は、交流相手校(全校児童数10名)とオンラインでの交流を行っている。1回目は自己紹介、2回目は学校紹介、3回目(本時)はお楽しみ会レクリエーションについて意見交流をする場とした。

本時の導入では、両校の児童に行った生活アンケート(ロイロノートを活用)を基に、両校の児童が交流会を楽しみにしていることに気付かせる。展開前半では、本校児童が考えたレクリエーションを、交流相手校の児童に紹介する。交流相手校は、他校とのオンライン交流での経験を基に、本校児童にアドバイスをする。展開後半には、両校の児童が今後の交流会のレクリエーションについて意見交換をしながら内容を決める。終末の段階では、他者と意見交流することで自分の考えが認められ、自己有用感を感じたり、多様な考えに触れることで、他者と関わることのよさを味わったりして、今後も話し合いながら交流会の計画を進めていきたいという思いをもつことができるようにする。

児童の学びの様子

- オンラインでお楽しみ会のレクリエーションを実施するに当たって、細かなルールを統一することや、使用する道具の条件を統一することの必要性について交流先の学校の児童からアドバイスを受け、ロイロノートのカードを修正することができた。
- ロイロノートで交流先の学校ともデータを共有し、修正した内容を即時的に確認することができた。
- オンライン会議を行う際、音声では伝わりにくい内容については、ホワイトボードに書いて示すなど、伝え方の工夫についても学ぶことができた。



指導のポイント

- 学校の壁を越えた学習活動を行うことにより、小規模校の児童にとって、より多様な考えに触れるとともに、対話を通じて個々のコミュニケーション能力を高める。
- 協働学習支援ツールを活用して考えをまとめることにより、思考力・判断力・表現力や情報活用能力が育成されることはもちろん、収集した情報を取捨選択したり、順序よく並べたり、書き直したりするなど、探究的な学習の過程における「整理・分析」の充実を図る。